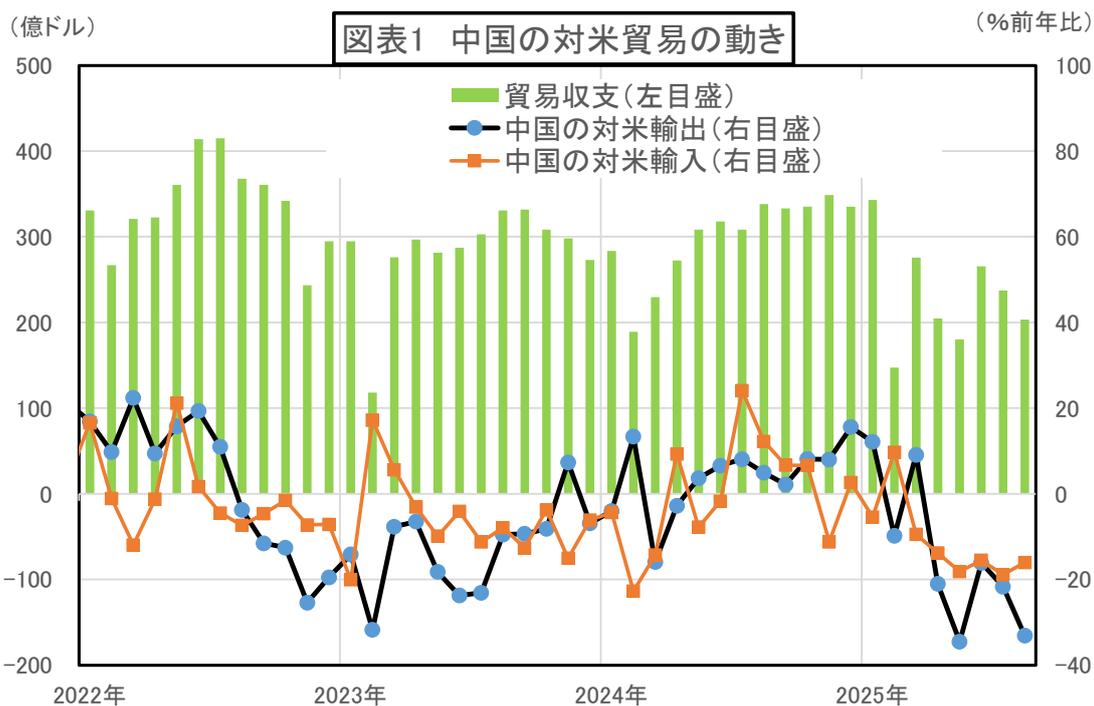


(中国)トランプ関税の影響で8月の輸出は鈍化も依然として底堅い

第2次トランプ政権が発足以降、米国は25年4月に「相互関税」を発動し、中国に最大145%の追加関税を課した。中国も対米関税を125%まで引き上げた。こうしたなか、5月(スイス)および6月(英国)に開催された米中通商協議で、相互に賦課した関税措置を停止・廃止、協議を続けることなどで合意した。その結果、米国の対中関税は30%、中国の対米関税は10%にそれぞれ下がっている。

その後、7月末にスウェーデンで3回目の米中通商協議を受けて、8月12日には関税の停止期限が90日間延長され、米中両国の協議が継続されることになった。新たな期限は11月10日となり、その間の中国からの輸入製品に対しては、関税30%が引き続き適用される。第1次トランプ政権の18年に発動された最大25%の対中関税と合計して現在の対中関税率は最大55%となっている。



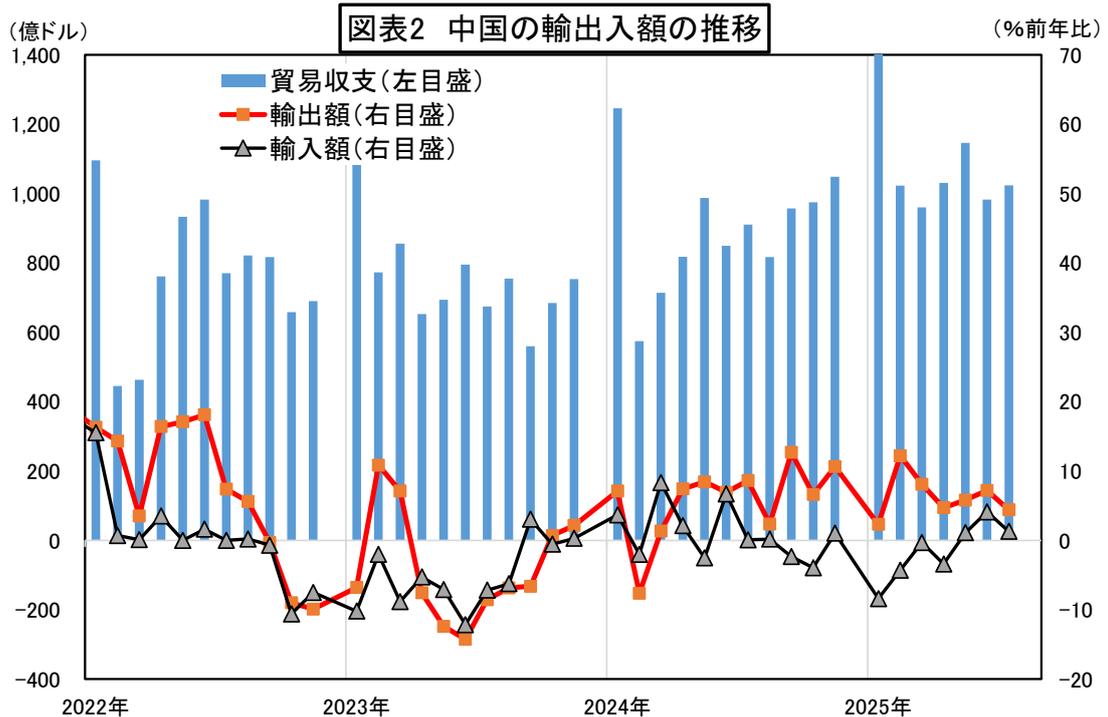
(資料)中国海関総署、Windより作成、直近は25年8月。

この高い対中関税を受けて中国の対米輸出は大幅に落ち込んでいる。8月の対米輸出額(ドル建て、速報)は前年比▲33.1%の316億ドル(約4.7兆円)と5か月連続で減少した(図表1)。減少幅は6月(同▲16.1%)、7月(同▲21.7%)から一段と拡大した。また、8月の対米輸入額も同▲16.0%の113億ドル(約1.7兆円)と6か月連続で減少した。相互の関税賦課の影響などにより、米中間の貿易は大幅に落ち込んだ状態が続いている。

対米輸出の大幅な減少を補ったのがアセアン、欧州、日本となる。シンガポールやベトナムなど

経済金融フラッシュ

のアセアン向け輸出額は同 22.5%と 7 月 (同 16.6%)から大きく伸びた。また、欧州向けは同 10.4%と 7 月 (同 9.2%)から小幅ながら拡大基調にある。さらに、日本向けも同 6.6%と 7 月 (同 2.5%)から伸びが加速した。他方、ロシアが一部の中国産トラックの輸入停止措置を発動したことあり、ロシア向けは同▲16.7%と 7 月 (同▲9.1%)から減少幅がさらに拡大した。



このようにアセアン、欧州、日本向け輸出が堅調に推移しているため、8 月の輸出額(ドル建て、速報)は前年比 4.4%の 3,218 億ドル(約 47 兆円)だった。輸出額の前年比伸びは 7 月の 7.2%から鈍化したものの、依然として底堅く推移したとみられる(図表 2)。なお、8 月の輸入額は同 1.3%の 2,195 億ドルと 7 月 (同 4.1%)から鈍化した。輸出額から輸入額を差し引いた貿易黒字は 1,023 億ドルとなる。

中国輸出の先行きについては、駆け込み輸出が剥落するほか、トランプ関税の影響が一段と強まることも予想されるため、輸出減に転じる可能性が高いとみられる。引き続き米中通商協議の行方やそれに伴う輸出環境の変化を注視していきたい。